



## 私のプロフェショナル

「叔父さん、前の車輪から変な音がするの」、「電気有点減がかしいの」、「ブレーキが利きにくい」と、行く度に新しい質問をする私は、老人とは思えぬ身軽さで、ヒョイと自転車を持ち上げ、的確に修理箇所を見つけたす姿にいつも驚かされていた。

また、ライトの修理に行った時は「この電気は古いけど、勿体ないのでこれを付けておくよ」と、年季物の自転車にビッタリの中古品を取り付けてくれた。そして「おいくら」と尋ねる私に「気持ちだけで良いよ」と深い皺の顔を、油で汚れた手で撫でながら答えて、他のお客がいない時は、よく自分史を話してくれた

改めてプロフェショナルとは何か考えてみる。

自分の仕事に対してどの様な質問にも答えられる人。即答できない時は、一緒に考える謙虚さをさらけ出す勇気のある人。仕事場で自信の色気が出ている人。

周りのプロフェショナルの姿に、思いを馳せたらゴールデンウィークも終わった。



## Michi recommends 響く本『おじいちゃん日本のことを教えて』



中條高德  
(なかじょう たかのり)

昭和2年長野県生まれ。  
陸軍士官学校、旧制松本高等学校を経て、27年学習院大学卒業。  
同年アサヒビール入社。  
50年取締役。常務、専務を経て63年副社長に就任。  
平成2年アサヒビール飲料会長。10年より同名顧問、現在に至る。  
(財)日本青少年研究所理事。  
(財)民間放送教育協会理事。  
著書に『立志の経営』『おじいちゃん 戦争のことを教えて』(致知出版社刊)などがある。  
(現住所)東京都千代田区九段北1-9-5-511

### 自由、責任、相互尊重。

昭和19(四年)年、私は旧制中学四年から陸軍士官学校に入学した。郷里を出るときは、家門の誉れ、郷里の誇りと讃えられ、日の丸の旗の波に見送られた。厳しさを加える大東亜戦争(昭和十二年、日中事変を含めて今次の戦争を日本政府は大東亜戦争と命名した)の状況に、日本を守るためにこの体を捧げるのだと私は胸を熱くしていた。

だが、終戦。戦争に負けたこともさきりながら、私にとっての何よりのショックは、価値基準の百八十度の転換であった。昨日まではあったものが、敗戦を境に今日は根こそぎ否定される。一点の疑いも持たずに立っていた自分の基盤が音を立てて崩れ、茫然自失となるほかなかった。

周りのすべてを拒否し、自分の中に引き籠もることで、私はようやく自分を支えた。そこから自分を再構築して新しく出発していくためには、死ぬほどの苦しみを味わわなければならなかった。

旧制から新制へと変わった学制の端境期

昭和19(四年)年、私は旧制中学四年から陸軍士官学校に入学した。郷里を出るときは、家門の誉れ、郷里の誇りと讃えられ、日の丸の旗の波に見送られた。厳しさを加える大東亜戦争(昭和十二年、日中事変を含めて今次の戦争を日本政府は大東亜戦争と命名した)の状況に、日本を守るためにこの体を捧げるのだと私は胸を熱くしていた。

だが、終戦。戦争に負けたこともさきりながら、私にとっての何よりのショックは、価値基準の百八十度の転換であった。昨日まではあったものが、敗戦を境に今日は根こそぎ否定される。一点の疑いも持たずに立っていた自分の基盤が音を立てて崩れ、茫然自失となるほかなかった。

周りのすべてを拒否し、自分の中に引き籠もることで、私はようやく自分を支えた。そこから自分を再構築して新しく出発していくためには、死ぬほどの苦しみを味わわなければならなかった。

旧制から新制へと変わった学制の端境期

昭和19(四年)年、私は旧制中学四年から陸軍士官学校に入学した。郷里を出るときは、家門の誉れ、郷里の誇りと讃えられ、日の丸の旗の波に見送られた。厳しさを加える大東亜戦争(昭和十二年、日中事変を含めて今次の戦争を日本政府は大東亜戦争と命名した)の状況に、日本を守るためにこの体を捧げるのだと私は胸を熱くしていた。

だが、終戦。戦争に負けたこともさきりながら、私にとっての何よりのショックは、価値基準の百八十度の転換であった。昨日まではあったものが、敗戦を境に今日は根こそぎ否定される。一点の疑いも持たずに立っていた自分の基盤が音を立てて崩れ、茫然自失となるほかなかった。

周りのすべてを拒否し、自分の中に引き籠もることで、私はようやく自分を支えた。そこから自分を再構築して新しく出発していくためには、死ぬほどの苦しみを味わわなければならなかった。

旧制から新制へと変わった学制の端境期

### 伝えていく世代の責務。

に、旧制高校から新制大学を卒業し、私はビール会社に就職した。もう国家に密接に関わるような場所には自分を置くまい。できるだけ官から遠いところにいて、戦争で何もかも失った日本の立て直しに自分なりに力を尽くしていく。それが私の思い定めた処世(生きざま)であり、生き方のスタンスだったのである。

しかし、ふと気がつけば、日本はすっかり豊かになり、世界に冠たる経済大国に位置していた。だが物の豊かさにおおわれた陰で、心がすっかき見すばらしくなっているのはどうしたことか。しかも、日本人の心の荒廃と衰弱は日に日に進んでいくようである。

戦争ですべてを失った地点から、戦後日本人は豊かになるために大変な努力をしてきた。豊かな社会になるために私にもわずかな部分であるがその一翼を担ってきたわけだが、こんな日本になるためにわれわれは頑張ってきたのだろうか、という思いが強く胸にきた。

豊富に満ち溢れた物に取り囲まれ、生活の利便さを十分に享受する近ごろの日本人の姿には、自分を自分たらしめている基盤への誇りは微塵も感じられない。歴史も文化も伝統も等閑視(なごさりにすること)して、自分は自分だけで自分であるような錯覚がはびこっている。この風潮こそが豊かさの陰で心を荒廃させているものなのだ。

この風潮は社会を構成する最小単位の家庭にも浸透し、蝕んでいく。そこから出てくるさまざまな病理的現象。最近頻発する、どこか神経症的な少年犯罪の数々はその象徴だろう。実業界や官界も例外ではない。

どうしてこんな日本になってしまったのか。やはりあの大東亜戦争の敗北と戦後のあり方に起因する、と考えるを得ない。

そのことに無自覚のままにきた結果が、いまの日本の姿なのだと思わないわけにはいかない。

3年生への進級を機に、彼は迷った末に、日本では単位の通信教育課程に在籍し、同時にニュージーランドの高校で学ぶというダブル・スクールを開始したのである。将来的なことを考えれば、彼のような展望を持つ者にとって、なるほど納得のいく方法です。日本人である彼は大学進学を考えれば日本の高校卒業資格が必要ですが、また、外国で働くことを念頭に置けば、カナディアン・アカデミー・世田谷校を経由してニュージーランド留学し、英語圏で働くことに重宝するコミュニケーションスキルやITスキルの習得も必要不可欠です。彼は、それを学びながら、何をしたいにもまず大切な「自分のやりたいこと」を発見したのでした。

それはパソコンを用いたデザイン制作でした。そして、「ヨシヒサ・カワシマの名前を記憶しておいて下さい」と、担任教師が言うほどまでにデザイン力を発揮する成長を遂げています。このように、川嶋君は実質的にも形式的にも将来の自己実現に向けて、日本の制度から逸脱せず、可能な限り海外での活動に踏み出す若い人を支援できるシステムを上手に利用してチャレンジした好範例ではないでしょうか。

クラーク記念国際高等学校柏キャンパス  
キャンパス長・中道克己

卒業おめでとう  
今日 クラークへ行って卒業証書を頂きました。良くがんばりました。おめでとう。  
先生方からも おめでとうの言葉を頂きました。難波先生 千明さま だん様、良尚のために色々ありがとうございました。今後とも ご指導の程、宜しくお願いたします。  
川嶋祐子



卒業おめでとう  
今日 クラークへ行って卒業証書を頂きました。良くがんばりました。おめでとう。  
先生方からも おめでとうの言葉を頂きました。難波先生 千明さま だん様、良尚のために色々ありがとうございました。今後とも ご指導の程、宜しくお願いたします。  
川嶋祐子



## 川 / 嶋 / 良 / 尚 Yoshihisa Kawashima

…ダブル・スクールを实践…  
クラーク高校卒業、  
Long Bay College 在学中